

KS・KWD・KWS-SERIES 取扱説明

KS・KWD・KWSシリーズ取扱説明

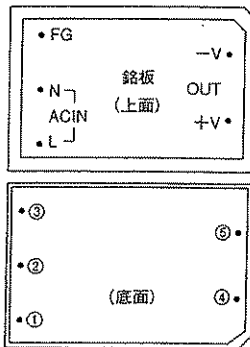
ご使用前に



- 入力・出力端子への結線が、本取扱説明に示されるように正しく行われていることをお確かめ下さい。
- KWS・KWDシリーズは、85～265VAC連続入力タイプです。100VACあるいは200VAC入力電圧系に対応するための切り換え作業は一切不要です。
- KSシリーズは、85～132VAC入力タイプです。200VACを入力すると、電源が破壊されます。

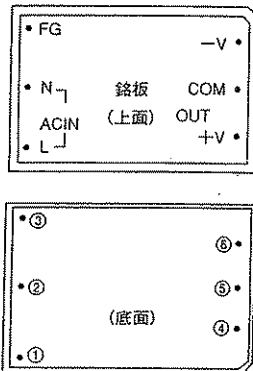
1. 端子配列

1 KS・KWS端子説明 (単出力)



- ①FG : 接地用フレームグランド端子
- ②AC IN (N) : 交流入力端子 (ニュートラルライン)
- ③AC IN (L) : 交流入力端子 (ライブライン) ヒューズが内蔵されています
- ④DC OUT (-V) : 直流出力端子 (-側)
- ⑤DC OUT (+V) : 直流出力端子 (+側)

2 KWD端子説明 (二出力)



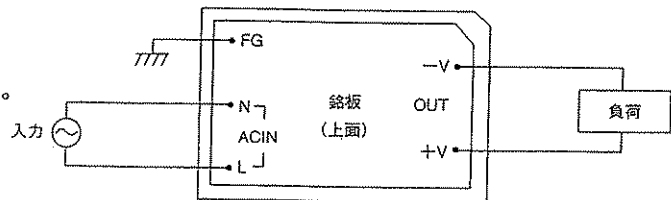
- ①FG : 接地用フレームグランド端子
- ②AC IN (N) : 交流入力端子 (ニュートラルライン)
- ③AC IN (L) : 交流入力端子 (ライブライン) ヒューズが内蔵されています
- ④-V : CH2出力端子 (-)
- ⑤COM : CH1、CH2のグランド端子
- ⑥+V : CH1出力端子 (+)

2. 端子接続方法

1 KS・KWS端子説明 (単出力)

交流入力  
KSシリーズ : 85～132VAC  
KWSシリーズ : 85～265VAC  
(連続入力タイプ)

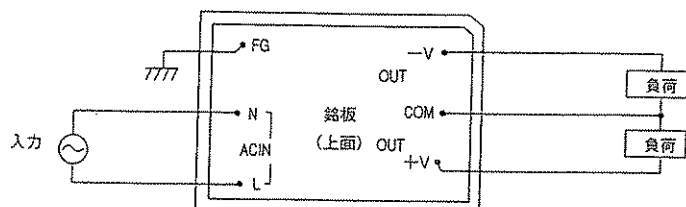
- 電源内部 (AC INのL側) にヒューズが内蔵されています。
- KSシリーズは、85～132VAC入力タイプです。200V系を入力すると、破壊することがあります。
- KWSシリーズは、85～265VAC連続入力です。入力切替作業は不要です。



2 KWD端子説明 (二出力)

交流入力  
85～265VAC  
(連続入力タイプ)

- 電源内部 (AC INのL側) にヒューズが内蔵されています。
- KWDシリーズは、85～265VAC連続入力力で入力切替作業は不要です。



KS・KWD・KWS-SERIES 取扱説明

3. 機能説明及び注意点

KS  
KWD  
KWS

1 過電流保護 (OCP)

出力電流制限方式自動復帰型を内蔵しています。OCP機能は、仕様規格値の105%以上で動作し、過電流・短絡状態を解除すれば自動的に出力は復帰します。尚、30秒以上の過電流・短絡状態での動作は避け下さい。電源の破損をまねく恐れがあります。

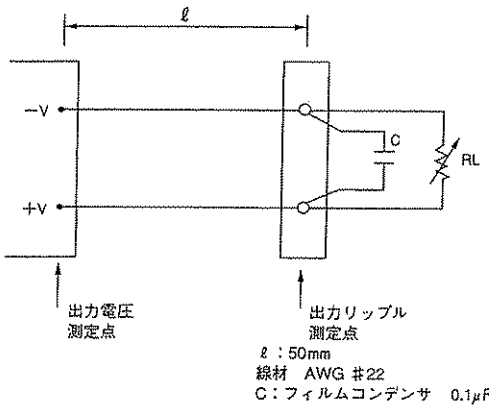
2 過電圧保護 (OVP)

ツェナーダイオードクランプ方式の過電圧保護回路を内蔵しています(二出力KWDシリーズは、CH2のみ)。クランプ電圧は、定格電圧の110%以上で出力をクランプします。過電圧印加により出力電圧がダウンした場合出力は復帰いたしません。電源交換願います。

3 リップル

仕様規格の最大リップル電圧値は、規定のリップル測定回路に於てEIAJ法に基づき(JEITA RC-9131プローブ使用)測定した値です。負荷線が長くなる場合は、負荷端にフィルムコンデンサ等を接続しませんと負荷端でのリップルが大きくなる場合があります。尚、測定時オシロスコプのプローブのグランドリードが長いと正確な測定は出来ませんのでご注意下さい。

「リップル測定回路」



4 雑音端子電圧

KWS, KWDシリーズは、入力側のL, N間に外付けコンデンサ(安全規格認定品)を追加することにより、VDEクラスB規格に準拠します。

下記推奨値をご参照下さい。

- KWS 5, KWD 5: AC250V 0.22μF
- KWS 10, KWD 10: AC250V 0.22μF
- KWS 15, KWD 15: AC250V 0.33μF

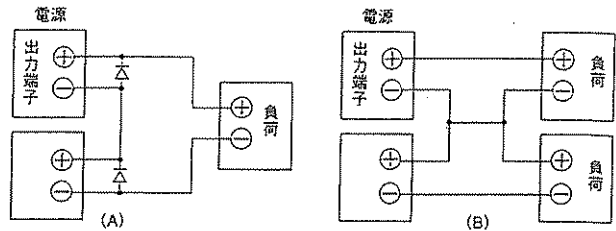
5 入力サージ電流

KS10, 15は、パワーサーミスタにて入力サージ電流を制限しています。パワーサーミスタによる方式は、温度により制限電流値が変わり、温度が高い場合や通電後の入力再投入時は、入力サージ電流が大きくなる場合があります。

6 直列・並列運転

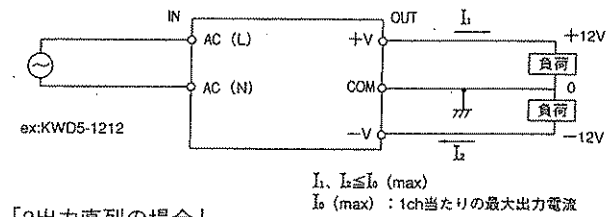
本電源は下図(A), (B)のいずれかの直列運転方法も可能です。(A)の場合は逆電圧印加防止のために、バイパス用ダイオードを接続して下さい。このバイパス用ダイオードの順方向電流は負荷電流に対して同等以上のものを、逆耐電圧は各電源出力電圧に十分耐えうるものをご使用下さい。

●KS・KWSシリーズ

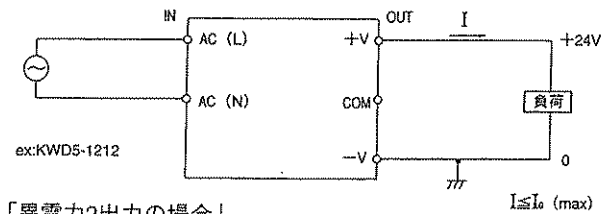


●KWDシリーズ

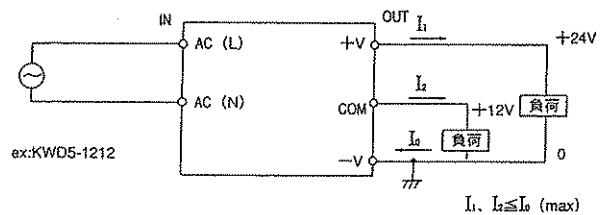
「正負出力の場合」



「2出力直列の場合」



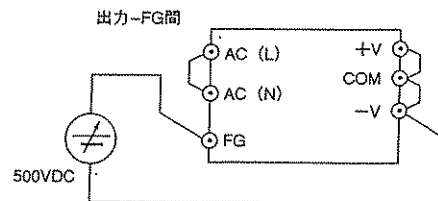
「異電力2出力の場合」



「並列運転は不可能です。」

7 絶縁抵抗試験

出力-FG間の絶縁抵抗値は、500VDCにて100MΩ以上です。尚、安全のために、DC絶縁計の電圧設定は絶縁抵抗試験の前に行い、試験後は抵抗等で充分ディスチャージして下さい。



\*KS, KWSシリーズの場合は、出力側の+V, -V端子を接続して下さい。(KS, KWSシリーズはCOM端子はありません)

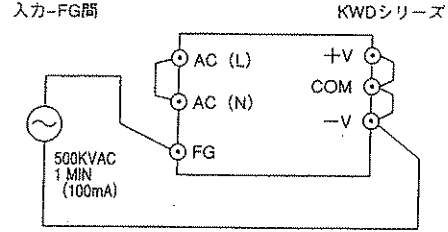
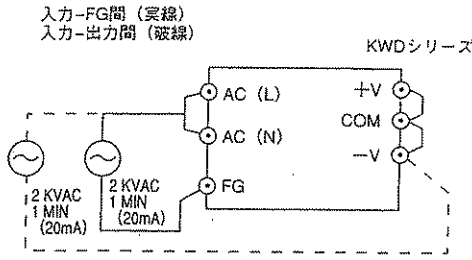
8 耐圧試験

入力-出力間2kVAC、入力-FG間2kVAC、出力-FG間500VAC、各1分間に耐えられるよう設計されています。耐圧試験器のリミット電流値を20mAに設定後(出力-FG間: 100mA)、試験を行って下さい。

試験電圧はゼロから徐々に上げ、遮断時も徐々に下げして下さい。試験時間をタイマーで行う場合、電圧印加・遮断時にインパルス性の高電圧が発生し、電源を破損することがあります。

\*但し、KWS, KWDシリーズは入力-出力間3kVAC

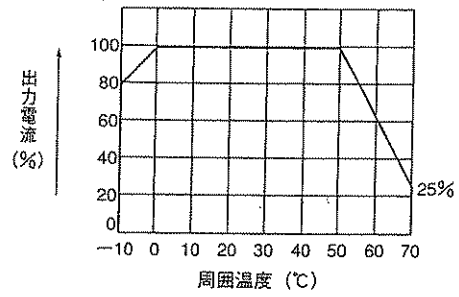
KS・KWD・KWS-SERIES 取扱説明



\*KS, KWSシリーズの場合は、出力側の+V、-V端子を接続して下さい。  
(KS, KWSシリーズはCOM端子はありません)

### 4. 出力ディレーティング

実装方向は自由に選択出来ますが、コンバータ周囲に熱がこもらぬよう空気の対流を十分考慮の上ご使用下さい。  
また、周囲の温度が高い場合は、右図のように出力のディレーティングが必要です。



### 5. 推奨半田付・洗浄

#### 1 推奨半田付け条件

- プリント基板への半田付け温度は下記条件内で行ってください。
- 半田ディップ槽を使用する場合……260℃、10秒以内  
プリヒート条件：110℃、30～40秒間
  - 半田ゴテを使用する場合……350℃、3秒以内

#### 2 推奨洗浄条件

半田付け後の推奨洗浄条件は、以下の通りです。

- 洗浄液  
IPA
- 洗浄方法  
洗浄液が電源内部に浸透しない方法（ブラシ洗浄等）で行ってください。（洗浄液が電源内部に浸透しますと電源の信頼性を損なう場合がありますので御注意願います。）  
注)上記推奨条件以外で洗浄する場合は、弊社にご相談下さい。

### 6. 故障と思われる前に

- 規定の入力電圧が接続されていますか。
- 入出力の接続は正しく行われていますか。
- 入出力に接続されているパターン幅は細すぎませんか。
- 負荷側に大容量コンデンサが付いていませんか。  
下記容量内でご使用下さい。

- KS 5 : 5V 100 $\mu$ F以下、12V 200 $\mu$ F以下
- KS 10 : 5V 200 $\mu$ F以下、12V 400 $\mu$ F以下
- KS 15 : 5V 400 $\mu$ F以下、12V 1,000 $\mu$ F以下
- KWS 5 : 5V 2,000 $\mu$ F以下、12V・15V 200 $\mu$ F以下
- KWS 10 : 5V 2,000 $\mu$ F以下、12V・15V 1,000 $\mu$ F以下
- KWS 15 : 5V 2,000 $\mu$ F以下、12V・15V 1,000 $\mu$ F以下
- KWD 5 : 800 $\mu$ F以下
- KWD 10 : 1212 1,000 $\mu$ F以下、1515 500 $\mu$ F以下
- KWD 15 : 1212 1,000 $\mu$ F以下、1515 1,000 $\mu$ F以下

